



多文化共生としての

舞臺芸術

第8回

日本の現代演劇

講師 内野 儀 (うちのただし)
(学習院女子大学 文化交流学部教授、アメリカ演劇・日本現代演劇)

「日本の現代演劇」という題自体、かなり曖昧です。
「日本の」って？「現代」って？「演劇」って？でも、皆さんの脳裏には、これこそが「日本の」だったり、「現代」だったり、「演劇」だったりする何かが、思い浮かんでいるでしょう。私の話では、それを否定も肯定もしません。ただ、ちょっと上から、あ、いや、「上から目線」は嫌われるから、「全体が見渡せる場所」に立つ勇気を出そうと思います。それで、共生というよりも分断なる形容がふさわしいかもしれない「日本の現代演劇」について、一緒に考えられたらと思っています。



Profile
内野 儀
(うちのただし)

1957年京都生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了(米文学)。博士(学術)。岡山大学講師、明治大学助教授、東京大学教授を経て、2017年4月より学習院女子大学教授。専門は表象文化論(日米現代演劇)。著書に『メロドラマの逆襲』(1996)、『メロドラマからパフォーマンスへ』(2001)、『Crucible Bodies』(2009)、『「J」演劇の場所』(2016)。公益財団法人セゾン文化財団評議員、公益財団法人神奈川芸術文化財団理事、福岡アジア文化賞選考委員(芸術・文化賞)、ZUNI Icosahedron Artistic Advisory Committee委員(香港)、日本アメリカ文学会編集委員、「TDR」誌編集協力委員。

2021年10月25日(月)18:00~19:30

Zoomウェビナーでのオンライン開催

- 使用言語: 日本語
- 参加費: 無料
- 事前申し込みが必要です。(本学学生優先。先着受付順)
- 参加ご希望の方は、10月24日(日)17:00(日本時間)までに、右の二次元バーコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。



- ホームページからも登録できます。
http://www.tufs.ac.jp/event/2021/211025_1.html
 - 問い合わせ先:
nukyoko@tufs.ac.jp (沼野恭子)
- 主催: 総合文化研究所 / 共催: 語劇支援室